

平成30年度 研究のまとめ報告書

豊かな心と健やかな体の育成

平成27年度 東京都教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育推進校・研究開発校
(中央区立久松小学校ホームページ参照)

平成28年度 東京都教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育推進重点校
(同左ホームページ参照)
平成29～30年度 東京都
教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育
アワード校



研究のねらい

小学校

○全ての教育活動の中で、小集団活動を核に、より主体的・対話的で深い学びをめざすことで主題に迫る。

幼稚園

～自分らしく表現する子どもを育てる～
幼児が自信をもって表現し、その子らしさを引き出す援助を探る。

研究の内容

小学校

- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざした小集団活動による学び合い学習（何をどのように学ぶか）の充実・定着（全学年・全教科等の実践例の蓄積）
- 全教科等における小集団活動を核とした言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成
- 心と体の健康教育の充実

幼稚園

“つくって遊ぶ” “なりきって遊ぶ”を通して「自分らしさ」を表現できるような援助と教材・環境の工夫



平成31年3月
中央区立久松小学校 中央区立久松幼稚園



久松の研究

目 次

- 久松の研究…………… 1
- 実践事例(小学校)…………… 4
- 実践事例(幼稚園)…………… 11
- まとめ…………… 15

豊かな心と健やかな体の育成

～自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して～

「小集団活動と言語活動の充実を核とした課題解決型学習を推進することでコミュニケーション能力や感性を育み、育てたい姿・めざす姿の子どもを育成する」

子どもたちの環境と現状

- 気の合う限られた集団内での関わり、コミュニケーション
- インターネット・メールでのコミュニケーション
- 思いを一方向的に伝える
- 友達や仲間に関する悩みの増加
- 自尊心の低下
- 低い水準で推移する体力
- 情報化・人工知能の進化

多様な課題

求められる資質・能力

知的能力・社会的能力

- 思考力・判断力・表現力(未知の状況に対応できる力)
- 主体性(学びに向かう力・思いやりの心・人間性)
- 思考の基盤となる基礎学力(生きて働く知識・技能)
- 合意形成能力(協力した課題解決)
- 論理的思考力(論理的に述べて問題を解決する)
- 自分と他者を大切にする心

健康・体力

集団の高まり

伝えたいという気持ちの高まり

育てたい姿・めざす姿

- 主体的かつ自律的に活動し、他者と効果的なコミュニケーションをとる子ども
- 多様な価値観をもつ人と協力・協働し、課題を解決できる子ども
- **思考力・判断力・表現力** **主体性** **多様な考え** **自主性・社会性** **対応力(場・相手)** **思いやりの心** **思考の深まり** のある子ども

一人一人の主体的・対話的で深い学びの保障

主体的な学び

- ◆ 学ぶこと・ねらいへの興味・関心、学習の振り返りの中でよさや可能性への気付き

対話的な学び

- ◆ 子ども同士の協働、教員や地域の人との対話・交流の中で気付き・思い・考えの共有

深い学び

- ◆ 教科等の特質に応じた思考・判断・表現
- ◆ 関係性やつながり、系統性などへの気付き・納得

全ての教育活動における課題解決学習

言語活動

- 体験を表現する・まとめる・書く・伝える・伝え合う・聴き合う
- 対話・討論などにより、よりよいことに気付いたりまとめたりする

小集団活動

- 他者認識と自己認識力の向上
- 違いを受け入れる(多様性の受容)
- 自己肯定感・表現意欲の向上
- 思いやりの心
- 関わる力

体験活動

- 多様な直接・間接体験の充実
- 非言語コミュニケーションを含めた多様な経験
- 課題の発見

育てたい姿・めざす姿に迫るための方法・手だて

あいさつ

校長 植村 洋司

本校は、これまで長きにわたり「豊かな心と健やかな体の育成」を研究主題とし、小集団活動を核として研究を推進してきました。本年度は、これまでの研究成果を受け継ぎつつ、新学習指導要領のポイントでもある特別の教科道徳と外国語(英語)科・外国語(英語)活動に焦点化し、実践的な研究を進めてまいりました。その中で、学校全体で貫いてきたことは「日々の授業の充実」です。毎日毎時間の授業の充実なくして、知徳体のバランスのとれた子どもたちを育てることは成し得ません。1年間かけて実践研究を積み上げ、日々の授業の充実に還元してまいりました。

この度、本年度の校内研究の一端を幼稚園・小学校が共同してまとめることができました。皆様の御批正をいただきたくお願い申し上げます。今後とも、更なる保育・授業の質の向上を目指して学校・園全体で精進してまいります。御指導いただきました講師の先生方、中央区教育委員会はじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

各教科等において小集団活動と言語活動の充実を図る

全教育活動で言語活動の充実というねらいをもった小集団活動を推進することで「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現し、研究主題に迫る。

小集団活動の充実

そのための手だて・工夫

自分の思考(要素Ⅰ)

- 学習課題に対して自分の考えをもつ **主体性**
- 自分の考えをどのように表現するか考える **主体性** **思考力・判断力・表現力**

伝え合い(要素Ⅱ)

- 自分の考えを伝え、他者の考えを知る。 **思考力・判断力・表現力** **思いやりの心**
- 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる **多様な考え** **思いやりの心**

思考のまとめ(要素Ⅲ)

- 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えをより確かに、より広く、より深める **思考の深まり**
- 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する **多様な考え** **対応力**
自主性・社会性 **思いやりの心**

◆思考力・判断力・表現力の育成 ◆コミュニケーション能力の育成

〈PISA 調査などの各種調査からの課題〉

- 思考力・判断力・表現力等を問う
読解力や記述式問題
- 知識・技能を活用する問題

〈これからの社会や企業が求める能力〉

- 知的能力
 - ◆思考力・判断力・表現力等の能力や自ら学習に取り組む態度
 - ◆思考の基盤となる基礎学力や教養
- 社会的能力
 - ◆チームで協力して課題を解決する「合意形成能力」
 - ◆論理的に述べて問題を解決する「論理的思考力」

主体的な学び・対話的な学び・深い学びと本校・本園の研究実践

従来行ってきた小集団活動を核とした学習指導の蓄積を新たな視点で見直し、より主体的・対話的で深い学びをめざす中で、主題「豊かな心と健やかな体の育成」に迫る。何ができるようになったのかを明確にし、そのためにどのように学ぶのかを大切にする。

(幼児期からの継続性を大切に一人一人に保障する)

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

幼児期の終わりまでに育つ姿勢

周囲の環境に興味や関心をもって働き掛ける。
見通しをもって粘り強く働き掛ける。

(幼児なりに)

他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、協力したりして自分の考えを広げ深める。

直接的・具体的な体験の中で様々な見方・考え方を働かせて対象に関わり、心を動かし、自分なりのやり方、ペースで試行錯誤を繰り返し生活する。

(学年等の発達に応じた系統性を大切に一人一人に保障する)

児童期の終わりまでに育つ姿勢

相手意識・目的意識をしっかりもち、**小集団**での表現活動の中で自らの学習を振り返る。振り返りの中で自己のよさや可能性に気づき、意欲を高める。

小集団活動による交流の中で、一人一人の気づき、考え、思いが共有され新たな気づきや関係を明らかにする。
相手を思いやる交流・関わりができる。

各教科等のもつ、それぞれの特質を大切に**小集団活動**を充実させることで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出す。関係性やつながり、系統性などに気づき納得する。
振り返りによるつながりなどの気づき、納得、腑に落ちる。

学びに向かう力

学びの質を高める

納得できる深い学び

小集団活動を活性化する手だて・工夫で深い学びに迫る

豊かな心と健やかな体の育成

これまで
めざして
きたこと

主体性 関わる力 質の高い学び

小集団活動を核とした
コミュニケーション能力の向上・言語活動の充実

●久松小学校の小集団活動…2人・3人・4人の活動で、視点を決めて見合う、意見や思いを伝え合う中で、相手を考えた伝え方を学び、自分の考えを広げたり、深めたりする。主体性や思考力・判断力・表現力などを育成する。

1年 音楽科・国語科（教科横断的な学習）

「ようすをおもいうかべて うたおう」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像

【豊かな心】楽曲に興味をもち、友達と歌うことを楽しむことができる子

【豊かな心】歌詞の表す様子や気持ちを想像して、友達とともに思いをもって表現できる子

具体的手だてと活動

小集団活動の活用

思いや意図を伝え合ったり、他の考えに共感したりしながら、言葉をどのように歌で表現すればよいかを考えた。

歌詞からイメージしにくいものについては、教師の声掛けによってイメージしやすい言葉に置き換えることで、思いをもった歌唱表現につなげた。



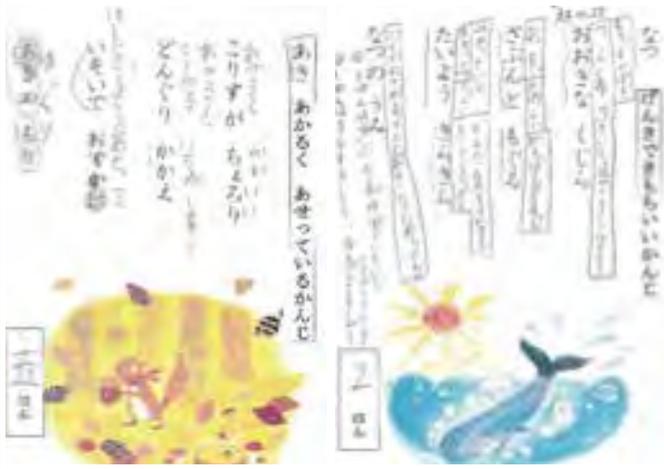
教科横断的な学習

国語科では、言葉や文章の意味を手がかりに、詩の中に隠れた様々な気持ちや様子に自ら気付くことで、言葉の大切さを実感した。そして、自ら気付いた様子や気持ちをどのように伝えるかを、友達とともに考え音読することで、表現することの楽しさを味わった。



横断的な学習に適した教材選定

音読、歌唱表現の双方において、子どもたちの様々な表現の工夫に耐えられ、意欲を持続する教材を選定した。これによって、小集団活動において多様な考えが生まれ、歌唱表現や音読の楽しさが広がった。



提示資料や板書の工夫

心で感じる様々な思いを言葉の表にまとめ「どんなかんじだろうカード」を提示した。このカードを国語・音楽の学習で活用することで、語彙量の増加はもちろんのこと、様々な感情に気付くことができ、表現の工夫に多様性が生まれた。板書は、横断的な学習をより明確に意識してもらうために、同じ板書で学習を進めた。



1年 道徳 「くまさんあのね。」(ダメ。) A 正直、誠実

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像

【豊かな心】感じたことや考えたことを友達と交流し、よりよく生活しようと思う子

具体的手立てと活動

小集団活動の活用

3人組の小集団で行い、児童が自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして、多様な考えに触れることができていた。友達の考えを取り入れて、自分の考えを変えている姿も見られた。



資料提示の工夫

話の内容や登場人物の心情をとらえやすくするため、プロジェクターによる紙芝居で教材提示をした。授業の展開でも場面絵と教材文を提示したことで、教材に浸り、登場人物の相互関係や心情について進んで考えることができた。



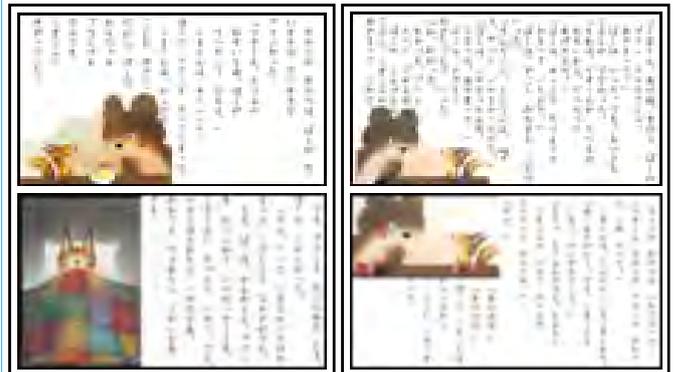
心情板の活用

自分の気持ちや考えを視覚化でき、友達との話し合いの中で変化する自分の気持ちや考えに気付くことができた。口頭で自分の考えを表現することが苦手な児童も、心情板を活用したことで、友達に自分の考えを伝える手助けになった。



教材文の提示の工夫

教材文の話の主発問の前と後の2回に分けて読むことで、りすくんの気持ちや悩みについて深く考えることができ、話し合いを活性化することができた。



2年 英語活動「好きな食べものはなあに」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像

【豊かな心】コミュニケーションをすすんで図ろうとする子

【豊かな心】英語活動を通して、外国の人や言葉に興味をもつ子

具体的手立てと活動

小集団活動の活用

自ら英語活動を楽しみ、進んでコミュニケーションを取ろうとする意欲を高めたり、1時間内の一人一人の発話量を増やすために小集団活動を活用した。また、本時では、発表の練習と既習事項を生かす場面で活用し、友達と話し合う中で多様な考えに触れながら、考えを深めていけるようにした。



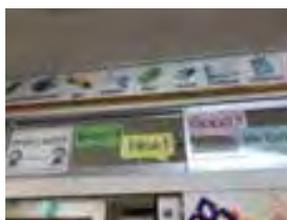
必然性を意識させる単元計画の設定

単元の途中でALTにビデオレターをもらったことで、最後にALTに自分の好きな給食を紹介しようという目標を設定し、主体的な学びに繋がった。



エンジョイワードの設定

エンジョイワードを2週間に1つ紹介し、授業の中で積極的に使っていくようにする。友達を褒める、友達の発話に反応するなど、英語でやりとりができるようにした。



他教科との関連

本単元では食育や日本の食事マナーに関する学習と関連している。給食配膳ブースに色を付けることにより、給食は栄養がバランスよくなるように構成されていることや、給食トレイの配膳にはルールがあることなどにも気付くことができるようにしていく。また給食準備時間に栄養士の先生に栄養素の食育指導をしていただいた。給食中に英語で表現する機会が増え、日常生活の中で使う機会が増えた。



3年 体育 「ゲーム」 ハンドベース

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像

【豊かな心】友達との関わりの中で、対話をしながら互いの力を主体的に高め合う子

【健やかな体】運動の特性に応じた楽しさを味わい、自己の課題解決に向けて進んで運動する子

具体的手立てと活動

小集団活動の活用

関わり合いを活発にし、ゲームへ向かう意欲やチームとしての団結を高めるために、単元を通して5～6人の小集団で活動した。チーム内の友達とアドバイスし合うことで技能や意欲の向上に繋がった。



振り返り

ゲームをする中で出てきた課題や成果を振り返ってすぐに次のゲームに生かしたり、学習したことを身に付けたりするために、振り返りの時間を設定した。1ゲームごとに、規則や動き方、作戦を振り返り、次のゲームや次時に生かせるようにした。

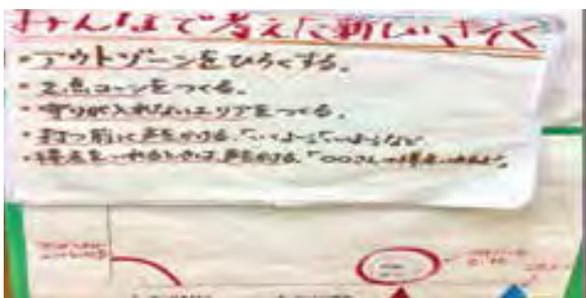


規則の工夫

はじめのゲームは、簡単な規則で行えるようにした。はじめのゲームを基に、夢中になって運動に取り組めるように児童に規則を工夫させた。

はじめのゲーム

- ・1ゲーム10分(前半5分後半5分)
- ・置いたボールを手で打つ
- ・攻めは守りより早くコーンにタッチできたら1点。
- ・守りは攻めがコーンにタッチする前に太鼓に当てれば得点を防げる。



用具の工夫

手で打っても痛くないようにボールを置くティーを工夫した。(玉入れの玉の上に紙コップをかぶせた) また、アウトセーフの判定がしやすく誰にでも取り組ませることができるよう、守りの児童に太鼓を持たせた。チームの全員が太鼓をもった守りを経験することができた。



4年 外国語活動 「今、何時? What time is it?」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (国語の目標と研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりを通して、コミュニケーションを進んで図ろうとする子

【豊かな心】英語活動を通して、日本と外国との習慣や多様な考えに気付き、尊重しようとする子。

具体的手だてと活動

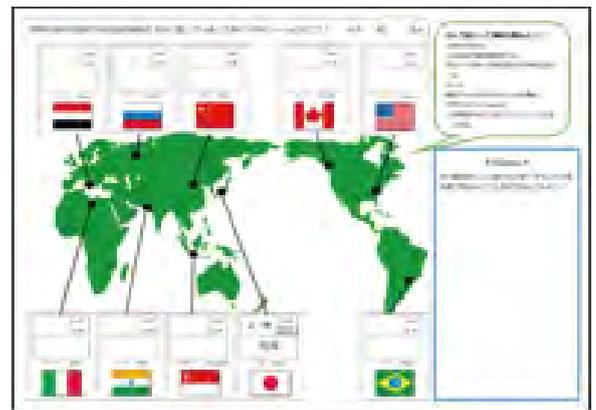
小集団活動での交流

4~5人の小集団ごとに担当する国を決め、世界の時刻や習慣について伝え合う活動を行った。小集団の中で、各国の時刻を尋ねる役と答える役に分け、交流をすることで、責任をもって伝える活動ができ、また一人一人の十分な会話量を確保することもできた。



ワークシートの工夫

世界各国の時刻と位置関係が児童の中でつながり、児童から気付きがうまれるように、ワークシートに世界地図を入れた。交流を通して気付いたことを記入するメモ欄を設け、小集団で1枚のワークシートを共有することで自然に世界の時刻や習慣について交流する様子がみられた。



年間を通した教室内の掲示

1~4年生までで身に付いた英語での挨拶や、コミュニケーションをする中で相手に対してリアクションをする言葉について、意識して使うことができるよう教室に掲示した。リアクションワードを意識することで相手との会話のやりとりを多くし、より自然な会話ができると考えた。また、英語の時間の約束を掲示することで、外国語活動に向かう意欲を高めた。



意図的に担任が使ったり、使うことができた児童を褒めることで、リアクションや友達への声かけを英語で行う児童が増えた。

言語活動の充実

外国語の活動にスムーズに入ることができるよう毎時間同じゲーム「Who am I? ゲーム」を取り入れた。また、単元を通して歌やチャンツ、リズムを用いた単語の練習を取り入れた。継続して行うことで外国語活動の学習を一人一人が自信をもって取り組む児童が増え、コミュニケーションも積極的になった。



5年 道徳 B 親切、思いやり

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像

【豊かな心】自らを見つめ、自らに問い掛けながら、自分の考えをもてる子ども

【豊かな心】友達との関わりの中で、よりよい生き方を見付けようとする子ども

具体的手立てと活動

道徳における言語活動の充実

自分の考えを書いたり話し合ったりするなど表現する機会を充実し、多様な考えに触れる中で、ねらいとする道徳的価値に対する自分の考えが広がったり深まったりすると考えた。



発問の工夫

資料と実体験に基づいた悩まざるを得ない発問「議論に値する発問」を投げ掛けた。それにより、児童が自分自身と向き合い、道徳的価値やそれに関わる事象を自分事として考える(=主体的に考える)ことができた。



小集団活動の活用

主発問に対するそれぞれの考えを議論する場を設けた。小集団での議論を通し、多様な考え方や感じ方に会って、自分の考え方や感じ方を深めることができた。また、話し合いの中で心情円盤を使うことで、自分の考えを視覚化するとともに、友達との議論の中で変化する自らの考えに気付けるようにした。



ワークシートの活用

ワークシートを活用することで、自分の気持ちや考えを整理することができた。個人の考えをもつ時間を設け、小集団で話し合い、再構築した自分の考えを書き出し、学級全体で考え共有する、という段階を踏むことで、一人一人が考えをもち、その考えをもとに考えを深めていけるようにした。また、毎時間書き溜めることで、自身の心の変化や葛藤を見つめ直すことができています。



6年 総合 デイケアセンターを訪問しよう

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自主性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (総合の目標及び研究主題より)

【豊かな心】様々な立場の方々と主体的に交流し、人とのつながりを大切にしようとする子

具体的手だてと活動

小集団活動での学習のまとめ

児童は自分と立場の違う方々と交流したり、また様々な体験活動をしたことによって、人の心のヒダに触れながら関わっていくことの大切さを感じ取った。小集団活動では、相手の立場を考えて行動し、互いに支え合える地域にしていきたいという意見が伝えられた。

〈交流後の児童の感想〉

「来てくれてありがとう。」利用者さんに握手してもらえて、嬉しかった!

「これからもがんばりましょう。」皆さんに励まされた思いがした。

言語活動の充実 (交流活動)

資料と実体験に基づいた悩まざるを得ない発問「議論に値する発問」を投げ掛けた。それにより、児童が自分自身と向き合い、道徳的価値やそれに関わる事象を自分事として考える (=主体的に考える) ことができた。



デイサービス訪問

これまでの体験活動

〈4年生のとき:福祉体験〉

障害のある方と交流して、相手の立場になって考え、声をかけた見守ったりすることが大切だと学んだ。

〈5年生のとき:ひさまつり〉

ひさまつりの活動を通して、人の役に立てることの喜びや感謝の気持ちをもつことの大切さを学んだ。



福祉体験



幼稚園との交流活動

交流会に向けた企画会議

これまでの体験活動をふり振り返りながら、児童はデイケアセンターの利用者の皆さんに喜んでもらえるような活動にするための話し合いをした。そして、利用者の皆さんと自分たちがいっしょになって楽しめる活動内容を企画した。

〈交流プログラム〉

第1部 全体発表

合唱「旅立ちの日に」「ふるさと」

じゃんけんゲーム大会

第2部 直接交流会 (小グループ)

楽しい対話

(あやとり・トランプ・お手玉・折り紙等)

幼稚園

教育目標

○たくましい子

○進んでやる子

○心豊かな子

本園の幼児の姿（課題）

教師の願い

- ・作ることは楽しんでいるが、作った物で遊ぶ姿が少ない。
- ・うまくできないと、すぐに援助を求める。
- ・思いやイメージがあっても、恥ずかしさからなりきる動きが小さくなったり、やろうとしなかったりする。

- ・作ったもので遊ぶ楽しさを感じてほしい。
- ・自分の思いやイメージを形にできた達成感を味わってほしい。
- ・自分のやりたいことに自信をもってほしい。
- ・自分なりの表現を楽しんでほしい。
- ・友達と思いを出し合いながら遊びを進めてほしい。

研究主題

「豊かな心と健やかな体の育成」

—自分らしく表現する子どもを育てるために—

目指す幼児像

- 3歳児・安心して自分の思いを出し、表現することを楽しむ。
- 4歳児・自分のイメージを生かし、身近な素材や用具を使って遊ぶことを楽しむ。
- 5歳児・目的をもち、友達と思いや考えを出し合いながら、やり遂げようとする。

“つくって遊ぶ” “なりきって遊ぶ”を通して、
幼児が「自分らしさ」を表現できるような教師の援助、環境の工夫を探る

平成29年度の成果から、

「イメージをもって遊びが楽しめる環境」

「自由性・選択性が保障された環境」

「意欲がもてるような具体的な目標」

3つの視点による援助のポイントを生かす。

事例検討をもとに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を各学年、学期ごとに探り、表を作成する。

新幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を本園の幼児に照らし合わせ、より具体的な発達に応じた経験や援助を探る。

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

本園の“つくって遊ぶ” “なりきって遊ぶ”の幼児の姿から捉える「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(2学期)表(一部抜粋)

① 健康な心と体

年少	年中	年長
・自分なりのイメージをもってとんだり、はねたりする。(長縄、ケンステップなど)	・自分のしたい遊びにじっくりと取り組んだり、繰り返し遊んだりして楽しさを味わう。	・自分なりの目的に向かって、力を出しながら実現していく満足感や充実感を感じる。(おまつりごっこ、プラネタリウムごっこなど)

② 自立心

年少	年中	年長
・新しいことに自分から関わり興味をもってやってみようとする。	・自分なりのイメージを広げて考えたり試したりして遊ぶ。	・自分のイメージしたものを考えたり工夫したりしながらやり遂げる達成感を味わい、自信をもつ。

③ 協同性

年少	年中	年長
	・周囲の友達の動きや遊びに興味をもち、自分もやってみようとする。 ・自分の遊びのイメージに沿って、動いたり、言葉を言ったりする。 ・気の合う友達とおおまかなイメージを共有して遊ぶ。	・共通のイメージの中で、友達と同じ目的に向かって力を出し合いながら取り組み、やり遂げた満足感を味わう。 ・友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを出したり、相手の思いを聞き入れたりしながら遊びを進める楽しさを味わう。 ・互いのよさに気付き、相手を認めたり、認められたりすることで喜びを感じる。

④ 道徳性・規範意識の芽生え

年少	年中	年長
・教師と一緒に、遊びや生活の中で簡単なきまりを決めて守ろうとする。		・社会生活のきまりやルール(順番に遊ぶ、待つ場所をつくる)を遊びの中に取り入れようとする。(射的屋さん、おまつりごっこ、お化け屋敷ごっこなど)

⑤ 社会生活との関わり

年少	年中	年長
・家庭で経験してきたことや身近に見たことを見立てたり、つもりになって動いたりすることを楽しむ。(焼き肉屋さん、おはけごっこ、ドーナツ屋さんなど)	・自分が行ったことのある場や経験のある事柄を自分なりにイメージして動いたりつもりになったりして遊ぶ。	・地域の行事に参加し、地域や身近な人に親しみをを感じる。また、楽しかったことを遊びや生活に取り入れて友達とイメージを共有しながら再現して遊ぶことを楽しむ。(おまつりごっこ) ・再現遊びをする中で、自分たちで作りたいものを考えたり、本物らしく工夫しながら作ったりすることを楽しむ。

⑥ 思考力の芽生え

年少	年中	年長
・絵の具の色が混ざると別の色に変化することに気付く。 ・テカルコマニエで左右対称に色がつく面白さや不思議さに気付く。		・自分なりに考えたり試したりしながら物の性質に気付く。(わたあめ作り) ・友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付く。自ら考えたり判断したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを感じる。(お化け屋敷ごっこ)

年少組 焼肉屋さんごっこ (10月)

<ねらい>

- ・自分なりのイメージをもち、見立てて遊ぶことを楽しむ。
- ・友達と同じ場で遊ぶことを喜ぶ。

☆イメージをもって遊びを楽しめる環境

△自由性・選択性が保障された環境

□意欲がもてるような具体的な目標

にあたる教師の援助・環境構成

具体的手立てと活動

焼肉屋のイメージをもって遊び始める姿がある。教師と一緒に場をつくり、遊びに必要なもの(皿、魚など)を場に持ち込んでいる。

焼肉屋さんやりたい!

美味しい焼肉にするなら、
どうしたらいいかな?

鉄板もあると美味しく焼け
そうだね!

お魚もいいね!



<教師の援助・環境構成>

- ☆具体的な動きにつながるようにトングや鉄板、火に見立てられるテーブルなどを用意する。
- ☆イメージに合った色の画用紙を製作コーナーに置いておく。
- △自分のイメージした物を焼いたり、選んだりする楽しさに共感する。
- 何の遊びをしているのかが分かるように教師が看板を作る。
- 牛乳パックの衝立を使って場を区切って落ち着いて遊べるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる姿

- ④ 道徳性・規範意識の芽生え
 - ・お客さんになって待つ際に並んで順番を待つ。
- ⑤ 社会生活との関わり
 - ・家で焼肉屋さんに行ったことからメニューがあったことを思い出し、自分なりのメニューを作る。
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - ・自分の欲しい肉の枚数を相手に言ったり、好きな数字を伝えたりする。
- ⑩ 豊かな感性と表現
 - ・「焼く」ことから連想して、焼肉に限らず身近な食べ物を焼こうとし、一人一人が自分なりにイメージを広げて楽しむ。



順番に待ってます!

自分らしく表現する姿

- ・画用紙で作った焼肉を、網に乗せたりトングでひっくり返したりして、なりきって遊ぶ姿につながった。
- ・教師とつくった場で、お客さんとの簡単なやりとりを繰り返し楽しむ姿につながった。



メニューも作って
みたよ!

分かりました!

焼けましたよー!



焼肉1つください

まとめ (成果と課題)

- ・幼児がイメージしていることを教師が聞き取りながら一緒に遊びを進めることで、見立てたり、つもりになったりして、より遊びを楽しむ姿につながった。
- ・教師がそれぞれの幼児の思いを受け止め、認めることで、安心して自分の思いを出したり、動きを出したりできるようになることが大切である。

年中組 かいぞくごっこ (10月)

<ねらい>

- ・一緒に遊ぶ友達の動きや言葉に興味をもち、関わって遊ぶ楽しさを味わう。
- ・様々な素材、材料などに親しみ、イメージや思いを出して遊ぶことを楽しむ。

☆イメージをもって遊びを楽しめる環境

△自由性・選択性が保障された環境

□意欲がもてるような具体的な目標にあたる教師の援助・環境構成

具体的手立てと活動

運動会のリズムで経験した海賊のイメージをもって、気の合う友達と一緒に遊ぶ姿がある。自分なりのイメージをもち、場や必要なものを作ろうとしている。



ハンドルを作って運転しよう!

海賊船って何があるかな?



<教師の援助・環境構成>

- ☆気の合う友達と思いを出して遊ぶ姿に共感したり見守ったりして楽しさが感じられるようにする。
- △自分なりのイメージで遊びに必要な用具や材料が自由に取り出して使えるように整えておく。
- 自分のイメージするものを形にすることが難しい幼児には、教師が思いを受け止め、一緒に材料の中から考えたり試したりして形にしていく楽しさを感ぜられるようにする。

自分らしく表現する姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる姿

- ③協同性
 - ・自分の遊びのイメージに沿って、動いたり、言葉を言ったりする。
 - ・気の合う友達とおおまかなイメージを共有して遊ぶ。
- ⑩豊かな感性と表現
 - ・気の合う友達が、自分なりのイメージで遊んでいる姿を、教師が言葉にして伝えることで友達の言葉や動きにも目が向くようになる。
 - ・同じ場で遊ぶ友達の言葉や動きなどが、互いの刺激となり、遊びのイメージが膨らみ、つもりになって動く。

- ・イメージが共通になることで、気の合う友達と同じ場の中で、思いを出し合いながら遊んだり、友達と一緒に海賊になりきって動いたりする姿につながった。
- ・自分なりにイメージしたものを身近な素材を使って作り、作ったものを遊びに取り入れながら遊んだり、なりきって動いたりする姿につながった。



さあ海賊船の出発だー!



芯を使って望遠鏡を作ったよ!

まとめ (成果と課題)

- ・学級で絵本や紙芝居などで海賊や宝の島などの共通の話のイメージを視覚的に知らせたことで、遊びの中でも気の合う友達とおおまかな共通のイメージとなり、自分の思いを出し合って楽しむ姿になった。
- ・これまでの遊びの経験から、遊びに必要なものをいろいろな材料の中から考えたり、試したりして選んで遊ぶ姿につながった。
- ・自分なりに考えたり試したりして、イメージを形にしていく楽しさやうれしさを感じられるよう個別に対応しながら援助する必要がある。また、個々の思いを大切にしながら友達とイメージの世界で遊ぶ楽しさを感じられるようにつなげられるとよい。

年長組 お祭りごっこ (9月)

<ねらい>

- ・遊びの中で友達と思いや考えを出し合いながら一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- ・共通のイメージをもち遊びを進める楽しさを感じる。
- ・遊びに必要なものを作り取り入れながら遊びを進めようとする。

☆イメージをもって遊びを楽しめる環境

△自由性・選択性が保障された環境

□意欲がもてるような具体的な目標

にあたる教師の援助・環境構成

具体的手立てと活動

夏休みに経験したお祭りのイメージ(わたあめ屋さん、焼きそば屋さん、金魚すくいなど)を幼児同士で出し合い遊びを進めようとする。

大江戸祭りごっこをするという共通の目的をもち、友達と思いを出し合いながら遊ぼうとする姿がある。

大江戸祭りのわたあめ屋さんをしよう!

わたあめに色をつけたいな
どうやったらいいかな

みんなが分かるように
看板を作るう!

開店はいつに
しようか?

わたに色がつくように
絵の具とボンドを混ぜ
てみるのはどう?



<教師の援助・環境構成>

☆幼児の思いを受け、目的を実現する喜びを感じられるよう、本物らしい素材を提案する。

☆教師がそれぞれの思いや考えを伝え合う機会をつくったり一緒に考えたりすることでイメージが共通になるようにする。

△イメージに合った素材で作って遊べるよう、幼児の遊びの実態に応じて教師が素材を提案したり、製作棚を整理したりする。

□遊びが展開するような言葉掛けをし、共通のイメージをもって遊びの展開につながるようにする。

自分らしく表現する姿

- ・幼児のイメージを受け止め、必要な素材を提案したことで、本物らしく作るために考えたり工夫したりし、イメージを実現する姿につながった。また、他の遊びの場にも刺激となった。
- ・友達と共通の目的がもち、思いを出し合いながら役割を考えたり必要なものを作ったりし、自分たちで遊びを進めようとする姿につながった。

わたあめを売る役と作る役で
分かれるっているのはどう?

スズランテープでプレス
レットを作るのはどう?

くじ引き屋さんの
商品はなにしよう?

いいね!私はこっちで
作る役になるね!

そうだね!!
たくさん作ろう!



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる姿

②自立心

- ・自分なりに考えたり、試したりして遊びに必要なものを用意している。

③協同性 ⑨言葉による伝え合い

- ・自分の考えを伝え合いながら友達とイメージを共通にしていく。

- ・遊びを進める中で、自分とは違う考えや思いがあることに気付いたり、聞き入れようとしていたりしている。

⑤社会生活との関わり ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・日常生活や幼稚園での環境の中で見ている文字や数字を遊びの中で活用している。

まとめ (成果と課題)

- ・幼児のイメージを受け止め素材を提示したり、自分たちで必要な素材を選べる環境を用意したりすることで、自分のイメージしたものを工夫しながら作る姿につながった。
- ・遊びや生活の中で、意図的に少人数で自分の思いを伝え合う経験を積み重ねてきたことで、自分たちで思いを出し合いながら共通の目的をもち、遊びを進める姿につながった。
- ・自分の思いを言葉で伝える力やイメージしたものを実現する力には個人差があり、発達に応じた援助が必要である。一人一人の実態や課題を常に把握し、遊びや生活の中で幼児の思いが実現していけるように、具体的な手立てを探り、援助していくことが必要である。

豊かな心と健やかな体の育成 まとめ

成果

小

○小集団活動

- ・小集団活動での学習により学び合い（他者との協働・対話的な学び）が充実し定着した。
- ・他者を認め、自分を認めてもらえる喜びが味わえた。
- ・学習過程で思考が深まった。
- ・自分の考えに自信をもち発言が増えるなど、主体的な学びの姿が多くなった。

○言語活動の充実

- ・自分の言葉で伝えようと、話し合いが活性化した。

○課題解決型学習が定着した。

○特別の教科道徳・外国語科・外国語活動に特化したことで主題との関連性について迫ることができた。

幼

○幼児のイメージを受け止め、認めることで、安心して自分を表現する姿につながった。

○イメージの実現に向けて、教師が幼児の思いを引き出したり、必要な教材を用意したりすることで、遊びが充実し、さらに自分や友達との表現（作る、なりきる）を楽しむ姿につながった。

○つくって遊ぶ、なりきって遊ぶ幼児の姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らし合わせることで、より具体的な経験を探ることができ、遊びの充実や教師の援助の工夫につながった。

課題

小

●特別の教科道徳・外国語科・外国語活動の教科化に伴う、主題との関連性の更なる追究

●小集団活動の中で、目的に応じて個の力を確実に高めていけるようにする。

●特に「深い学び」を実現するためのカリキュラムマネジメントの更なる確立を目指す。

幼

●自分のイメージしたものを実現する力やイメージしたことを伝え合う力には個人差があり、一人一人の発達に応じた援助が必要である。幼児の実態や課題を把握し、遊びや生活の中で幼児の思いが実現していけるように、具体的な手立てを探り、援助していくことが必要である。

【御指導いただいた先生方】

東京女子体育大学 教授	小林福太郎	先生
聖学院大学 教授	東 仁美	先生
元 桜美林大学 教授	井上千枝美	先生

中央区教育委員会

指導室長 吉野達雄	教育支援担当課長 細山貴信		
統括指導主事 村上隆史	統括指導主事 上原史士		
指導主事 清水浩和	指導主事 平野 収	指導主事 中村真紀絵	指導主事 和田正典
幼児教育担当専門幹 中島由美子			

【研究に関わった教職員】 (◎研究主任 ○研究推進委員)

小学校

校長 植村 洋司	副校長 新屋由美子		
1年 ○ 南村 章子	大沢 卓美	算数少数	太田 倫子
川合 晶道	小野 育実	音楽	松村 裕子
水上美穂子		音楽	宮澤 裕之
2年 菅野 志保	若林 玲子	図工	古館 俊江
○ 関澤 里織	関口里可子	養護	上野 弘子
3年 ○ 富田 七海	奈良部 淳	事務	中台 真紀
支倉 絵璃		非常勤教員	宍倉みさ子
4年 千葉 日織	相澤 博之	特別支援教室専門員	水村 悦郎
○ 中原 里美		区算数講師	石塚 幹夫
5年 ○ 大竹 悠介	太田 知依	区算数講師	石井 涼子
鈴木可奈子		体育指導補助員	岸谷 紀久
6年 ○ 川島 幹雄	川瀬 穰	体育指導補助員	武蔵 一樹
◎ 中嶋 友晴		栄養士	伊藤久実子

幼稚園

園長 太田 禎子	主任 田村みず希
年少 宮野 莉歌	◎ 佐久間栄美
原田 智子	
年中 鈴木久仁子	齋藤 有紀恵
年長 ○ 深瀬 良子	齋藤 舞
保育補助 高木 淳子	加藤 知美
荒木 麻耶	石井 典子
荻原 由紀	加藤 幸代